

健康長寿静岡の新たな機能性食品産業の創出 —食品の機能性成分データベース構築と商品開発—

[背景・目的]

本県は全国一の439品目もの豊かな農林水産物を生産し、数多くの県固有の在来作物を抱える「食材の王国」であり、これら食材の持つ栄養や機能性に関する研究を多く行ってきました。また、国民の健康志向の高まりを背景に平成27年4月から新たな食品の機能性表示制度が始まり、機能性表示食品市場が活況となっています。そこで本県としても機能性表示に関わる新たな食品産業の創出を目指した取組みとして農林技術研究所(本所)が中心となり、県内5研究所、県新産業集積課、静岡県産業振興財団が連携し、本県の主要農林水産物の機能性や生産状況等に関する情報を蓄積したデータベースを構築しました(図1)。また、本県特産品を活用した新商品を開発し、機能性表示食品としての販売を目指しました。



図1 農林水産物データベースの検索トップページ

[研究成果]

柑橘類に含まれる機能性成分(β -クリプトキサンチン(BCR)、 γ -アミノ酪酸(GABA)、ノビレチン)に着目し、商品開発を行いました。温州みかんはBCRを豊富に含有し、県内農協の商品には「骨の健康を保つ」機能性表示がなされています。我々は、県内初の温州みかん加工品における機能性表示商品開発を目指し、現行のみかん飲料のBCR濃度を高めた試作品を県内企業と共に開発しました(図2)。

さらに、温州みかんにはGABAも豊富に含まれており、県内団体が販売している濃縮還元みかん飲料に血圧改善効果の機能性を表示すべく、同団体の届出支援を実施しています。

また、戸田香果橘(へだたちばな)と太田ポンカンと共に、リウマチ予防効果等が期待されているノビレチンを多く含み、これらを活用したヨーグルトにかけるソースを県内企業と共に開発しました。



図2 BCR強化みかん飲料試作品

[研究成果の普及・技術移転の計画]

農林水産物データベースについては、企業には県産農林水産物を活用した新たな機能性食品開発に、県民には食生活改善に役立てられるよう、広報活動を行い認知度向上に努めます。また、今回開発した食品の製品化を支援しつつ、得られた知見を活かして今後の県内企業による新たな機能性表示食品の開発および届出支援を継続して行います。